

部長会議の概要

- 1 開催日時：平成18年9月12日（水）8：45～9：40
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 出席者：知事、副知事、出納長、各部長等
- 4 欠席者：警察本部長（代理出席：警務部長）
- 5 議事概要：以下のとおり
（ 議題提出部説明・回答、 意見・質問）

（重要情報共有化）

議題1：宮川流域ルネッサンス事業第3次実施計画の策定について（政策部）

資料1に基づき説明

実施計画の策定にあたっては、「新しい時代の公」・「文化力」の視点で事業を見直してもらいたい。また、「三重県地域産業振興条例」の反映も考えてもらいたい。

大雨の際の流木対策については、鳥羽市と流域市町との情報共有などの対応を検討いただきたい。

当初は県主導で、今後は地域主導に移行していくことはわかるが、流域市町はどのように考えているのか。

流域市町や国、地域住民が参画する宮川流域ルネッサンス協議会幹事会において、2010年度以降どのように流域市町や住民が関わっていくかを議論している。

宮川流域ルネッサンスの本来の目的は、流量回復だと考えている。また、そのことは流域市町も意識されているので、慎重に取り組む必要がある。

県主導から地域主導に移行する際は、NPOや流域市町にミスマッチがでないように、うまくバトンタッチできるようにしてほしい。

役割分担を明確にしていき、その中で「地域主導でやるべきことは地域で」ということであり、県が全て手離すのではない。今後は宮川流域ルネッサンス事業推進調整会議の中で、十分協議・調整をして、第3次実施計画を策定していく。

議題2：県の審議会等における委員の構成比および選任計画について（生活部）

資料2に基づき説明

男女の委員構成が均衡のとれた審議会の割合が増えたにもかかわらず、女性の登用率が下がり、女性のいない審議会も増えたことについては、どのように考えているのか。

女性委員の比率が低い審議会が設置されたことなどが原因と考えられる。

農水商工部では、各団体の役員に女性がいない審議会について、次期改選時に有識者として女性の選定を考えるなど努力していく。

生活部としては、年1回現状を報告しているだけで結果を待っているだけではないのか。このままだと来年も計画を達成できない状況は変わらないのではないのか。

基本要綱や運用要領に基づいて、審議会等委員を選任する際には各部局から事前協議はいただいている。また、要綱などで職務指定（いわゆるあて職）があるものについては、改善してもらおうようお願いしている。今後も状況を見ながら各部局と協議していきたい。

事務レベルでは（女性委員が少ない審議会の）審議会等委員を登用するにあたっては、その都度生活部に事前協議を行っており、各部局とも審議会等への女性委員登用については、かなり意識が高いと思われる。しかし、女性の人材がないなど様々な要因があり、なかなか登用が進んでいないと思われる。

各部局とも努力していることはわかる。しかし、努力だけでは来年度も達成できない。

元の委員構成から変えていただきたい。各部局とも状況をふまえて選任計画は立ててもらっている。

審議会等委員における女性の登用率は、男女共同参画を表す指標としてはよく使われる数字である。法令における職務指定で女性のいない分野は現実には多くあり、各部局とも苦労していることと思う。審議会等の委員には法令などで委員構成が職務指定の義務があるものと、ある程度裁量ができるものがある。新しい時代の公（ニュー・パブリック・ガバナンス）で、審議会に求められるものは変化してきている。必置審議会では会長などの役職だけの審議会では県民の意見は反映しにくい。委員構成は、県民の声が届くようなものに見直していく必要がある。女性のいない分野については、社会の時代の変化でゆっくりと時間をかけて変わっていくだろう。

各部局の努力は認めるが、努力だけでは限界がきている。各部局から改善計画を提出してもらわないと来年度も状態は変わらない。

議題3：「2006年第6回新体操ワールドカップファイナル三重大会」について （教育委員会事務局）

資料3に基づき説明

10月に東京・大阪で県人会がある。その機会に大会の広報をしてはどうか。検討いたします。

以上